

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 					<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>				
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)				
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>					<p>コトバと文学の科学的研究にとどめて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>				
専門分野のカリキュラム									
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期				
11042	ドイツ語学概説A	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2	*		◎			○
11043	ドイツ語学概説B	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2	*		◎			○
11044	ドイツ文学史A	ドイツ文学の歴史上の流れを理解する。	2	*		◎		△	○
11045	ドイツ文学史B	ドイツ文学の歴史上の流れを理解する。	2	*		◎		△	○
42301	ドイツ文学特殊講義A	ドイツ文学研究の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		○		△	◎
42302	ドイツ文学特殊講義B	ドイツ文学研究の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		○		△	◎
42303	ドイツ近現代文学特殊講義A	ドイツ近現代文学の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		○		△	◎
42304	ドイツ近現代文学特殊講義B	ドイツ近現代文学の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		○		△	◎
42305	ドイツ言語文化特殊講義A	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題を理解する。	2,3,4	*		○		◎	△
42306	ドイツ言語文化特殊講義B	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題を理解する。	2,3,4	*		○		◎	△
42307	ドイツ語学特殊講義A	ドイツ語研究のテーマを選び、検討を加える。	2,3,4	*		◎		○	△
42308	ドイツ語学特殊講義B	ドイツ語研究のテーマを選び、検討を加える。	2,3,4	*		◎		○	△
42309	ドイツ語認知言語論講義A	ドイツ語について認知的観点から諸問題の理解を深める。	2,3,4	*		◎		○	△
42310	ドイツ語認知言語論講義B	ドイツ語について認知的観点から諸問題の理解を深める。	2,3,4	*		◎		○	△
42311	ドイツ語コミュニケーション論講義A	コミュニケーションの問題からことばと人間について考える。	2,3,4	*		◎		○	△
42312	ドイツ語コミュニケーション論講義B	コミュニケーションの問題からことばと人間について考える。	2,3,4	*		◎		○	△
42313	ドイツ文学演習A	ドイツ文学研究の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*				○	◎
42314	ドイツ文学演習B	ドイツ文学研究の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*				○	◎
42315	ドイツ近現代文学演習A	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*				○	◎
42316	ドイツ近現代文学演習B	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*				○	◎
42317	ドイツ言語文化演習A	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*			◎		○
42318	ドイツ言語文化演習B	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取りくむ。	2,3,4	*			◎		○
42319	ドイツ語学演習A	ドイツ語について言語学的に考える訓練をする。	2,3,4	*		○			◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を通じて、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
42320	ドイツ語学演習B	ドイツ語について言語学的に考える訓練をする。	2,3,4	*		○				○	◎
42321	ドイツ語認知言語学演習A	ドイツ語について認知言語学研究的訓練をする。	2,3,4	*		○				○	◎
42322	ドイツ語認知言語学演習B	ドイツ語について認知言語学研究的訓練をする。	2,3,4		*	○				○	◎
42323	ドイツ語コミュニケーション論演習A	コミュニケーションの問題からことばと人間について主体的に取り組む。	2,3,4		*	○				○	◎
42324	ドイツ語コミュニケーション論演習B	コミュニケーションの問題からことばと人間について主体的に取り組む。	2,3,4		*	○				○	◎
42325	ドイツ語読解基礎	ドイツ語読解の基礎力を身につける。	2	*		○					◎
42326	ドイツ語コミュニケーション1	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を積み上げる。	2	*		◎	○				
42327	ドイツ語コミュニケーション2A	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2		*	◎	○				
42328	ドイツ語コミュニケーション2B	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2		*	◎	○				
42329	ドイツ語コミュニケーション3A	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力を付ける。	3,4		*	◎	○				
42330	ドイツ語コミュニケーション3B	ドイツ語コミュニケーション能力の中級の力を付ける。	3,4		*	◎	○				
42331	ドイツ語コミュニケーション4	ドイツ語コミュニケーション能力の上級の力を目指す。	3,4		*	◎	○				
42332	ドイツ語表現法	ドイツ語の文章力を鍛える。	3,4		*	◎	○				
42333	ドイツ語圏研究A	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		◎			○	
42334	ドイツ語圏研究B	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		◎			○	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*			◎				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトバと文学の科学的研究の中心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。討議やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>					
専門分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期		
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*		◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学の学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		◎
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。	1	*			◎
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*		◎
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1	*			○
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*		○
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*		○ ◎
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*			○ ◎